

術前患者の不安の表出に係る因子の検討

4階東病棟

○岡田千恵加・矢野 緑・田辺亜紀子
大久保淑子・又口 生子・吉田 優子
山村 愛子

I. はじめに

術前患者の不安に関しては、これまでに多くの研究がある。日本では、昭和45年より池田ら¹⁾が術前患者430名を対象に、術前の不安の内容を分析している。その後、長谷川ら²⁾の不安の経時的変化に関する研究や、小野ら³⁾、村上ら⁴⁾のSTAIを用いた不安の程度の測定などの研究がある。

このように術前患者の不安に関しては、さまざまな方面からの分析が行われており、術前患者への援助を行うにあたっては不安の軽減が重要視されてきているといえる。

当病棟では、心臓・大血管・肺・消化器疾患などを対象に年間300例の手術が行われている。術前患者に対しては、手術が決定したときよりパンフレットを用いて術前オリエンテーションを行っており、その際患者の不安に対しては訴えを傾聴し、積極的に関わるよう努めている。不安を言葉で表出する患者では不安の内容について把握しやすく、具体的な援助が行えるが、不安を言葉で表出しない患者に対しては、不安の内容がつかみにくく、具体的な援助が難しい。そこで今回の研究では、不安の表出に焦点を当て、不安の表出にはどのような因子が関係しているかを知りたいと考えた。

II. 研究課題

術前患者の不安の表出にはどのような因子が関係しているのかを検討する。

III. 研究方法

1. 対象：当病棟において外科手術を受ける患者25名。年齢は25歳から79歳(平均年齢61歳)で男性18名、女性7名である。疾患別では心疾患4名、大血管疾患5名、肺疾患3名、消化器疾患8名、その他5名であった。
2. データ収集期間：平成8年5月から9月。
3. データ収集方法：面接法によりデータを収集した。面接に当たっては半構成的質問紙を作成し、質問を行った。面接はすべて同意を得たうえで

カセットテープに録音した。

4. 分析方法：KJ法を用いて、得られたデータをカテゴリー化した。

IV. 結果

得られたデータをKJ法によって分類した結果、「不安表出対象因子」「不安表出状況因子」「不安表出内容因子」「不安表出促進因子」「不安表出抑制因子」の5項目の大カテゴリーに分類できた。5項目の大カテゴリーは、33項目の小カテゴリーを含んでいた。

1. 不安表出対象因子 (表1)

不安表出対象因子は、術前の不安を表出する対象を不安表出の1つの因子としたものである。不安表出の対象者としては、「妻」「兄弟・姉妹」「同室患者」「医師」の順に多かった。

表1 不安表出の対象者

対象者	人数	対象者	人数
妻	10	孫	2
兄弟・姉妹	5	友人	1
同室患者	3	看護婦	1
医師	3	両親	1
親類	2	娘	1

2. 不安表出状況因子 (表2)

この因子は、術前の不安をいつどういう時にどういう場面で表出するかという因子である。「検温時」「廻診時」が多かった。

表2 不安表出の状況

状況・場面	人数
検温時	6
回診時	3
話しかけてくれた時	2
不安がある時自分から話しかける	2
身内に手術をした人がいる	2
医師が一人で来てくれた時	2
じっくり話を聞いてくれた時	1

3. 不安表出内容因子 (表3)

どういう内容の不安を表出したかという因子である。疾患、手術、手術の段取り、術後経過という内容が聞かれた。

表3 不安の内容 (人)

手術の段取りについて	3
手術について	2
疾患について	2
術後経過について	2
術後の痛みについて	2

表4 不安の表出を促した状況(人)

医師からの声かけ	1
処置の手際よさ	1
快く返事が返ってくる人	1

4. 不安表出促進因子 (表4)

不安表出促進因子とは、術前患者の不安の表出を促す因子である。これには、「医師からの声かけ」「快く返事が返ってくる人」「処置の手際よさ」があった。

5. 不安表出抑制因子 (表5)

不安表出抑制因子は、不安を表出しない、表出しなくてもよい、または不安を表出させにくくしている因子である。「看護婦、医師からの説明に満足している」「内向的な性格」「信頼している」「自分で解決する性格」「具体的な不安の内容が解らない」「家族と共に説明を受けた」「看護婦と話す時間が少ない」「手術が急に決まった」「あきらめている」「心配をかけたくない」などがあつた。

表5 不安の表出を抑えている状況 (人)

看護婦・医師からの説明に満足している	9
内向的な性格	8
信頼している	8
自分で解決する性格	4
具体的な不安の内容が解らない	4
家族と共に説明を受けた	2
看護婦と話す時間が少ない	1
手術が急に決まった	1
あきらめている	1
心配をかけたくない	1

V. 考察

1. 不安表出対象因子

不安表出の対象者としては、「妻」に不安を表出する人が10名と多かった。これは、研究対象者が25名の中で、男性が18名と多かったことが影響していると考えられる。これらの患者にとって、妻は一番身近な存在といえる。対照的に、不安表出の対象者を「夫」と答えた人はいなかった。これは、研究対象者には高齢者が多く、女性7名中配偶者が健在であるのが2名と少なかったことが影響していると考えられる。不安を医療者に表出する人は、医師に対してが3名、看護婦に対してが1名と少なかった。高山ら⁵⁾の不安の表現度に関する研究によると、不安表出の対象は家族等93.8%に対し、看護婦6%と非常に低い。今回の研究においても、同様に術前の不安を医療者よりも家族に多く話していた。

2. 不安表出状況因子

不安表出の状況としては、「検温時」6名、「廻診時」3名と、医療者が病室を訪問した時が多かった。その他にも少数意見ではあるが「医師が一人で来てくれた時」「じっくり話を聞いてくれた時」「話しかけてくれた時」などの項目があり、不安の表出には医療者からの積極的な働きかけが必要といえる。

3. 不安表出内容因子

患者は不安表出の内容について医師には「疾患」や「手術」のこと、看護婦には「手術の段取り」について話しており、不安の内容によって表出対象を選択している。高山らの研究においては、患者は医師に対しては「生命の維持に関する不安」や「肉体的苦痛に関する不安」、看護婦に対しては「環境の変化からの不安」を話すなど、内容によって対象を選択しており、今回の研究と同様の結果が得られている。

4. 不安表出促進因子

不安表出促進因子である「医師からの声がけ」「処置の手際よさ」「快く返事が返ってくる人」の3項目は、いずれも医療者－患者関係の中から抽出されているといえる。「医師からの声がけ」では、「先生がなんでも聞いて下さいねと言ってくれたから話しやすかった」という声が聞かれ、「処置の手際よさ」では「毛ぞりをてきぱきとやってくれた時に言いやすかった」、「快く返事が返ってくる人」では「おはよう言うておはようが返ってくる人」という意見があった。忙しい業務のなかでも、積極的に患者に働きかけ、不安表出のきっかけを提供する必要がある。

5. 不安表出抑制因子

不安を表出しない患者の中には、「看護婦、医師からの説明に満足している」「信頼

している」という項目のように、満足がいく説明を得て手術や疾患について納得ができているために不安の表出がない人がある。しかし、一方では「内向的な性格」「具体的な不安の内容がわからない」という項目のように、不安をもちながらも表出できない人もいる。後者に対しては、不安表出促進因子などを利用して、医療者側からの積極的な働きかけが必要である。

6. 術前患者の不安の表出に関する因子の関連図（図1）

以上5項目の因子を抽出し、術前患者の不安の表出に関する因子の関連図を作成した。

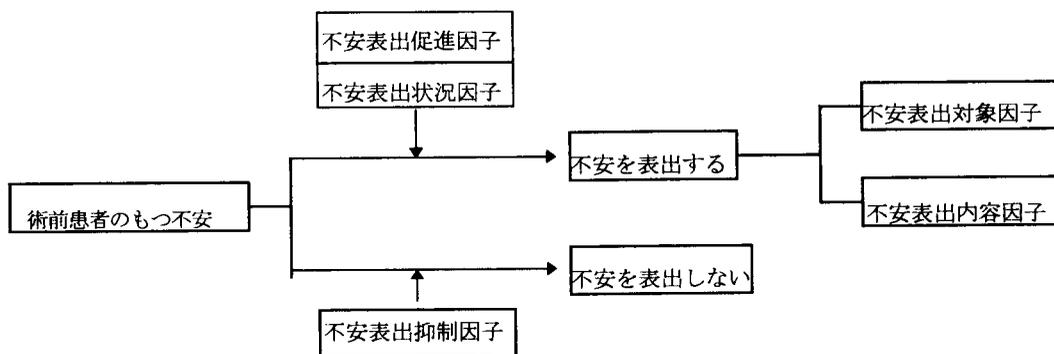


図1 術前患者の不安の表出に関する因子の関連

VI. おわりに

今回の研究において、術前患者の不安の表出に関する5項目の因子が抽出できた。研究期間が短く、対象者が少ないことから、この研究を一般化するには限界があるが、今回の研究で得られた結果を、今後の術前患者への援助に役立てたい。

参考文献

- 1) 池田さと子：アンケートからみた手術前患者の不安について，看護研究，6(4)，24-33，1973.
- 2) 長谷川真美他：手術患者の不安の経時的変化について，第20回日本看護学会集録「成人看護Ⅰ」，192-195，1989.
- 3) 小野勝三他：STAIを用いた心臓手術患者の手術前の不安とその分析，第21回日本看護学会集録「成人看護Ⅰ」，191-194，1990.
- 4) 村山こず枝他：開心術を受ける患者の術前の不安の程度とその要因の分析，第23回日本看護学会集録「成人看護Ⅰ」，8-11，1992.
- 5) 高山成子他：手術前患者の不安の表現度について，第17回日本看護学会集録「成人看護」，119-121，1986.